

参加者アンケートの概要

《回答者の年代・自治町内会について》

●回答者の年代別人数									●回答者のブロック別人数								
年代	10~30	40	50	60	70	80以上	無回答	計	ブロック	新屋敷	片瀬山	東	西	五町	江の島	その他	計
人数	0	1	7	4	8	2	0	22	人数	2	12	2	4	0	0	2	22

《第一部 まちづくり活動計画について》

- 一人暮らしのコミュニティが空き家を活用する方法を考えたいです。
- 中高生の居場所について中高生も立案・意見を言える場所が大切と思う。
- 地域住民と市と多方面にわたり協働したい。市民の家の有効活用。
- 活動を周知するための広報活動が必要と思われる。
- 行政がベースになることは良いと思います。情報共有の方法について、SNSの活用を一考いただければ幸いです。
- 独居老人、老老介護問題、落書き防止。

《第二部 片瀬山幼稚園跡地の利活用について》

- 二分の一に分割せずに有効に活用してほしい。
- 半分売却の話は初耳で驚いた。折角の土地なので、全部を市民のために利用できるようにするべきではないか。備蓄倉庫を併設すれば、その恩恵を受けるのはむしろ海岸の人ではないか。
- 公募構成員に中高生の意見はぜひ欲しいが、学生に参加してもらうにはメリットが無いと出てくれないのでは？
- 内容が全く納得できない。跡地二分の一、複合施設ではない、ということはまったく受け入れられず、前提条件から除外していただきたい。
- 市民の家だけなら二分の一で良いかもしれないが、この広さはもっと活用すべく、市民の家、防災、子どもの居場所、高齢者向け施設への利用を。
- 土地の全体を利用できる前提で、市民の家/複合施設を考えることが必要です。
- 片瀬地区全体の防災機能を持つ市民の家には反対。建設工事がもっと早くできないか。
- 「次世代」の子どもたちが地域に根付く「楽しい」、「好きだ!」と子どもたちがなるような取組が必要だと思います。
- 片瀬山の方の考え方がよく分かりました。
- 発想の転換が必要。防災を中心に考えるべき。
- 二分の一売却は反対。避難場所は片瀬山しか無いと思う。片瀬山に広範な土地が出ることは今後考えられないので、避難センター建設を進めてほしい。避難センターとなる市民の家+子どもの家+etcの指示複合施設を100年先を見て考えて欲しい。
- 誰でも使えるような楽しい場所にしてほしい。
- 片瀬中学校の生徒さんに意見を聞いてみるのはとても良い考えだと思いました。
- 折角の広い土地なので、複合的な視点での活用が望ましいし期待している。
- 利活用に時間がかかりすぎ、4年後に建設?もっとスピード感を持って欲しい。

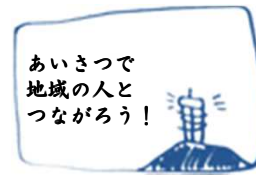
《地区集会で今後とりあげてほしいテーマ》

- 不法駐輪、迷惑駐輪の禁止、空き缶、空き箱ポイ捨て禁止→街の美化、歩きスマホ禁止→安全対策
- 津波避難として川名・江ノ島線?の延長
- 「地域について思うこと」子どもたちと一緒に
- 片瀬地区全体で考える防災

《その他、日頃感じている地域の課題・ご意見について》

- 防災の備蓄の充実を図って欲しい。
- 避難道路としても、川名・江ノ島線?の延長を早く着工した方が良い。
- 目白山は場所柄、片瀬地区・片瀬山地区どちらへも加入できるように、なかなか入り込めません。
- 年齢構成の問題もあるだろうが、SNSを活用して、情報発信・共有や該当地域以外にも、「住みたい町」や「行ってみたい町」という関心を持っていただける情報発信手段を検討していただきたい。
- 会場について、イスだけだと大変不便利です。メモを取るにも資料も色々あり、テーブルを是非準備いただければと思います。

地区集會にご参加いただき、ありがとうございました。アンケートでいただいたご意見につきましては、市民自治推進課に提供する他、今後の協議会活動・地区集會の参考といたします。



片瀬・江の島まちづくり協議会



第二十七号
発行日 2017年(平成29年)7月25日
発行人 片瀬・江の島まちづくり協議会
発行人 長谷川 紀夫
事務所 片瀬市民センター内
電話:0466-27-2711 FAX:0466-25-8907
電子メール:fj-kata-city.fujisawa.lg.jp
片瀬地区ポータルサイト
http://fujisawa-katase.ecom-plat.jp/

特集

まちづくり地区集會レポート ~今年度の活動計画と 片瀬山幼稚園跡地利活用について~



5月20日(土)に片瀬市民センターにて「片瀬・江の島まちづくり協議会」の平成29年度第1回地区集會を行いました。
当日は40人を超える方々にご参加いただき、今年度のまちづくり協議会事業計画について説明をした後、片瀬山幼稚園跡地の利活用について、市民自治推進課から説明を受け、質疑応答、意見交換を行いました。今号は地区集會をご報告いたします。

第1部 まちづくり活動計画について

第1部では、まちづくり協議会が今年度取り組む事業について、スライドとナレーションを交えながら、参加者の皆さまに説明いたしました。

当日のスライドは片瀬地区ポータルサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

今年度は、24名の委員と19名の協力員が7つの部会と1つのワーキングに分かれ、12の事業と2つの課題について推進、検討してまいります。



会場の後ろでは、写真等をたくさん用いた各事業のパネル展示を行い、活動を詳しく紹介いたしました。

各事業・課題の取り組みについては、まちづくり通信二十六号に掲載しており、また、まちづくり通信はポータルサイトにも掲載しておりますのでご覧ください。

なお、右のQRコードからポータルサイトにアクセスできます。

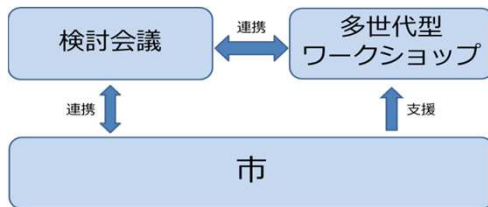


中面は第2部「片瀬山幼稚園の跡地利活用について」

第2部 片瀬山幼稚園跡地の利活用について

市の説明概要

- 跡地には、敷地の二分の一を活用し、片瀬山市民の家を再整備する。
- 残りの二分の一は売却等も選択肢に入れて検討する。
- 市民の家の再整備は片瀬山に限らず、片瀬地区全体の取り組みとする。
- 市民の家にはパブリックコメントでいただいた防災機能を加える。
- 再整備にあたり、市民の家が建て替えられるまでの土地の利活用及び建て替えに関して地区住民の声を反映させたい。
- そのために、片瀬地区住民により構成される検討会議を開催する。
- 検討会議は20名構成とし、広く意見を集めるため、半数を公募、残りの半数を片瀬山自



検討会議・ワークショップ・市の関係

- 治会関係者、まちづくり協議会委員からの選出とする。
- 検討会議の他、市民の家の機能と今後の運用形態のアイデアづくりや、更地間の利活用案のアイデアづくりのために、多世代型のワークショップを随時開催する（30～50名程度）。

意見交換・質疑応答の概要

●…参加者の発言、→…市民自治推進課の発言

- 現在の片瀬山市民の家利用者は95%が片瀬山の住民である。その実情を理解していただきたい。敷地が1,300㎡もあるのだから、高齢者・防災対策の目的があり、100名規模の大会議室があるような新しい複合施設を希望する。敷地全てを使えないのであれば、今の場所を変える必要はない。利用者の中心である片瀬山の住民の意見を聞いて、提示された案は白紙で受ける。片瀬山住民の意見を聞いて再検討して欲しい。
- 本日お示した案は理事者と調整済みですので、現案ではこういう形で進めていきたいと考えています。防災機能に関しては面積を増やすことはできますが、藤沢市として、現時点、市民の家は防災拠点の役割は持たせていません。
- 他の方の意見に賛成である。利用者は片瀬山の住民が中心である。敷地を最大限に使って欲しい。検討委員会に若い視点を入れるのは将来的に良いと思う。
- 青少年の居場所に関しては、しおさいセンターにある。子どもは数字の面では減っているものの、気持ちの面では増えている。乳幼児

- 保護者の気持ちを考えた施設を。
- いつ災害が来るのかは判らない。平時は複合施設として使えて、非常時は防災や避難施設となるようなものを作って欲しい。また、二分の一売却ではなく、全て使って欲しい。
 - 二分の一売却は決定ではなく、財政が許すのであれば他の施設も建設する可能性があります。
 - 海岸側は災害時に避難施設がない。片瀬中学校以外に、片瀬山にそういった施設ができれば、海岸沿いの住民も安心できる。市は市民の意見を聞いて欲しい。
 - 二分の一売却は将来的なものとのことだが、資料を見れば売却が前提ではないか。取り消した方が良い。公募委員の女性は三分の一に限定するべきではないと思う。
 - 二分の一についても必要であれば活用いたします。売るのは他に選択肢が無い、最終手段です。女性三分の一は、最低三分の一、ということです。
 - 公募委員に興味を持っている。片瀬山1丁目でも子どもが増えてきている。今日の説明は夢がなかった。



各施設の位置図



地区集会の様子

年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
取組内容	検討会議設置	基本構想	基本設計	実施設計	建設工事

年度別スケジュール

- 土地全て活用する話で聞いていた。半分の土地を売るとは聞いていない。
- 避難施設機能込みの複合施設を作り、観光客でも使えるものが欲しい。
- 片瀬地区内の市民の家（片瀬山、江の島、浪合）の立ち位置を考えて欲しい。片瀬地区にどういった市民の家のビジョンを設けるか、そして、それぞれのビジョンが、どの地域にどういう特色を持たせるのか、そういう互換性というか、関連性を持った中で片瀬山市民の家を考えていただきたい。
- それぞれの市民の家は個別に特性を有しています。個別に検討する必要があり、互換性については、これからの話になると思います。
- 要望書を提出したのは、防災機能の強化が前提である。片瀬中学校の備蓄は量が少なく、補完する目的で市民の家を活用して欲しい。受け入れ機能をもっと増やすと共に市民の家の地下には備蓄倉庫を設けることを配慮して欲しい。
- 利活用の一案として、片瀬中学校のテニス部に跡地をコートとして使わせて欲しい。
- 始めから二分の一を売却する、という提言に驚いた。夢のある複合施設を作ろうと思っていた。こんなに夢のない話有るか。改めて、1,300㎡の土地活用を検討して欲しい。
- どの市民の家も片瀬地区全体のものと思っていたが、片瀬山限定の話になっている。他地区の間も参加できるものではないのか。また、中高生の居場所は地区内にないので、彼らを委員に加えて、声を聞いて欲しい。
- 1,300㎡あれば、高齢者や子どもや防災といった地域の課題を反映できると思う。最初から半分では夢も半分になる。そういった施設ができれば、ほかの地区からもぜひ来て欲しいと思っている。
- 海岸エリアに子どもの居場所がない。二分の一を売却するのであれば、その資金をぜひそういったことに使って欲しい。

《検討会議公募委員の募集について》

現在、市民自治推進課では片瀬山幼稚園跡地の利活用について、検討会議公募委員の募集について準備を進めているそうです。地区集会で説明されていた予定よりも遅れておりますが、地域への回覧等で情報提供を進めていくとのことです。